

「自防連だより」は、共助の大切さとともに地域防災力の向上を推進するための、市内各自主防災団体の情報交換の場です。

令和7年の災害統計が発表されました

災害・救急状況

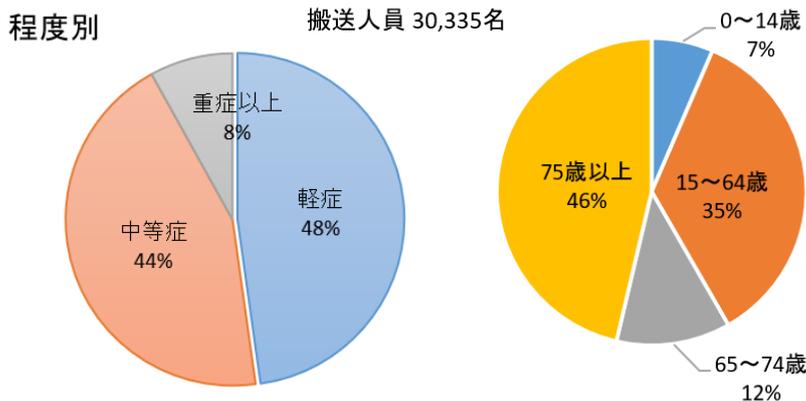
	火災件数	焼損床面積	火災による死者	救急件数	救助件数(注)
令和7年	199件	1,504㎡	7名	30,374件	1,346件(97件)
令和6年	201件	1,233㎡	3名	30,694件	1,250件(120件)
前年比	-2件	+271㎡	+4名	-320件	+96件(-23件)

数値は令和7年12月31日現在の速報値です。()内は山岳救助件数になります。高尾山でも救助される方は毎年あり、低山と侮ってはいけません。

令和7年は令和6年と変わらず、依然として救急件数が非常に多い件数となっています。昨今、軽症であっても救急車を呼ぶ事例が高止まりしている状況です。自防連会員の皆様におかれましては、改めて、救急車を呼ぶ必要があるのか？一度冷静に考えてもらった上で、119番に電話をかけるようお願いいたします。

119番をかけるべきか迷ったら、ぜひ下記電話番号で相談してください。

救急搬送人員の状況



#7119 東京消防庁救急相談センター
救急車を呼ぶか迷う時、医師や看護師が相談にのってくれます。

また、火災件数は減少したにも関わらず、焼損床面積は増加しています。ここから、火災の大規模化が読み取れます。

昨年も、日本各地で大規模な火災が発生し、多くの方がお亡くなりになりました。一瞬の気の緩みが火災を招き、全てを奪っていきます。防災訓練で初期消火訓練を取り入れる等、防火対策にもぜひ取り組んでください。

●火災・防災訓練の効果的な実施に向けて

自主防災団体では、火災・災害への備えや地域の結束を強めるために防災訓練を行っています。訓練は繰り返すことで知識や技術が身につきますが、内容が固定化したり、参加者が限られてしまうと、効果が薄れてしまうこともあります。訓練の目的を参加者にしっかり伝えることで、理解と意欲が高まり、より実践的な成果につながります。

●主な訓練手法



・個別訓練

避難・初期消火・情報収集・応急救護などを分けて、ローテーション形式で実施します。各項目に集中して取り組めるため、効率的に多くの内容を体験できます。

・図上訓練(シミュレーション)

災害発生を想定し、室内で行動手順や必要資器材を話し合う訓練です。準備が比較的簡単で、実働訓練前の課題整理にも役立ちます。

・総合訓練

地震や火災などの災害を想定し、避難・救助・情報伝達など一連の対応を実施する訓練です。全体の流れを理解しやすい反面、準備に時間がかかるため、他の訓練で基礎を固めた後に行うと効果的です。



バケツリレー消火訓練

●訓練の工夫と振り返り

訓練手法を組み合わせたたり、近隣地域と合同で実施することで、参加者の経験や習熟度に応じた内容にできます。初心者からベテランまで幅広い層が参加するため、グループ分けや役割分担を工夫し、全体のレベルアップを目指しましょう。訓練後には振り返りのミーティングを行い、課題や改善点を次回に活かすことが重要です。



八王子市消防団特集!!!～あなたの街を守るヒーローたち～



八王子市消防団女性隊 全国準優勝の快挙！

— 横浜・赤レンガ倉庫で開催「全国女性消防操法大会」で堂々の成果 —

2025年10月28日(火)、横浜赤レンガ倉庫で行われた「第26回全国女性消防操法大会」で、八王子市消防団女性隊が東京都代表として出場し、見事準優勝を果たしました。全国から選抜された精鋭チームが集う中、八王子の女性隊は軽可搬ポンプ操法の部で、日頃の訓練の成果をいかんなく発揮。会場の観客から大きな喝采を受けました。

出場メンバーは、指揮者の谷秀美隊長、1番員・木村七海さん、2番員・高坂美月さん、3番員・坂本華澄さん、4番員・小高麻耶さん、補助員・上田朱音さんの6名。皆さん仕事や家庭を持ちながら活動しています。一昨年の都大会で優勝し、昨年の全国大会出場の切符をつかみました。

大会に向けては、夏の暑さが残る9月から週3回の訓練を重ねました。平日は仕事終わりの夜間、市役所の駐車場などで消防車の照明を頼りに練習を行いました。市内12個部の消防分団が輪番でサポートに入り、全消防団を挙げて女性隊をバックアップしました。



女性隊メンバーと初宿市長



全国大会本番の様子

谷隊長は「チーム全員が一つの動きのように連携できた。本番では緊張もあったが、これまで支えてくださった皆さんのおかげで、笑顔で自分たちの操法をやり切れた」と振り返ります。木村さんも「多くの応援が力になった。全国での経験をこれからの活動に生かしたい」と語りました。

今回の準優勝は、八王子市消防団全体の誇りであり、地域防災の力強い象徴です。仲間との絆と努力でつかんだこの成果を胸に、女性隊は今後も「安全で安心なまち・八王子」を守り続けます！

消防団、頑張ってます！目指せ山火事0件！！

春の訪れとともに、山々は新緑が美しく芽吹きます。多くの自然を有する八王子市へも、日本中だけでなく、世界中から高尾山へ登山者が訪れます。でも実はそこに、思わぬ危険が潜んでいるのです・・・。

登山者には、残念ながらごみのポイ捨てや、タバコの吸い殻を捨てる方も一部います。もし、捨てられたタバコに、火種が残っていたら？ごみの中に、燃えやすいものがあったら？非常に危険ですよ。また、春は若葉が美しいために、ついつい上を見てしまいますが、足元にはまだ腐葉土になる前の枯葉も残っていたりします。火災は乾燥する冬でしょ？と思う方も多いと思いますが、春先もまだまだ油断は禁物です。

そこで密かに活躍しているのが・・・消防団！実はこの時期、彼らは地道に山へ入り、火の気がないか、不審な煙が立っていないかをチェックしています。火災の“タネ”を見つけては事前に処理。地味だけど超重要なこの任務、まるで「山の静かなるヒーロー」です。何も起きない日々の裏側には、こうした人たちの努力があるのです。「春の山が美しい」のは、誰かがしっかりと見守っているから。山に感謝、そして見えないヒーローたちにも拍手を！



山林火災を想定した訓練

消防団入団希望はこちらまで！新たなヒーローをお待ちしています。市役所防災課消防担当 TEL：620-7208

【東日本大震災をうけて、意識改革！】

館町町会に自主防災会が設立されたのは平成 11 年のことです。設立当初は具体的な活動や訓練は行われていませんでしたが、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災を契機に、「このままではいけない、何かやろう」と前区長を中心に数人の仲間が集まり、意見を出し合いながら防災訓練の実施を決定しました。

八王子市役所防災課や八王子消防署、消防団の協力を得て、平成 24 年 3 月 11 日に第 1 回目の防災訓練を実施しました。奇しくも震災からちょうど 1 年目の日であり、館町市民センター横のたてまち広場で行いました。その後、避難所に指定されている横山第一小学校に会場を移し、館町団地自治会やゆりのき台自治会も加わり、現在は 3 町会主催で訓練を継続しています。

【参加者の減少対策として】

訓練は毎年実施してきましたが、回数を重ねるにつれて参加者の減少傾向が見られるようになりました。そこで、参加者の関心を高めるために、トヨタ自動車大学校やボーイスカウト第 7 団の協力を得て、「紐の結び方」などの実用的な訓練項目を導入しました。さらに昨年度からは、高齢者あんしん相談センターの協力により「車いす体験」を加え、車椅子の介助を経験することの重要性が認識され、参加者からも好評を得ています。



「紐の結び方」指導



車いす体験

【新たな取り組みとして】

防災訓練には、今年度からトヨタ自動車大学校の協力のもと、災害時の電力供給手段として、「EV・電気自動車」の活用法について学ぶ予定です。また、館町自主防災会として新たな組織体制を構築しました。各区長が情報班、避難誘導班、救出・救護班、給食・給水班などを担当し、組長が活動員となる体制を整え、平時および震災時の具体的な活動内容を検討しています。これにより、さらに実践的で役割分担の明確な防災活動が可能となり、地域全体の防災力向上に期待しています。

【課題と検証】

今後の課題として、増加する一人暮らしの高齢者や身体障がい者に対して、震災時にどのような声掛けや支援が必要か、地域としての共助・支援策の具体化が求められています。災害時には、迅速かつ的確な対応が必要となるため、平時からの備えが不可欠です。そのためには、通常時から要介護者や支援が必要な方の情報をどのように共有し、どのような方法で支援を行うかを地域全体で検討しておく必要があります。個人情報取り扱いには十分な配慮が必要ですが、災害時に命を守るための情報共有の仕組みづくりは、今後の重要な課題です。

また、これまで実施してきた防災訓練や支援体制についても、定期的な検証と見直しが不可欠です。参加者の声や実際の訓練で得られた課題をもとに、内容の改善や新たな取り組みの導入を行うことで、より実効性のある防災活動へとつなげていくことができます。災害はいつ、どこで起こるかわかりません。だからこそ、日頃からの備えと地域のつながりが何よりも重要です。館町町会自主防災会では、今後も「誰ひとり取り残さない防災」を目指し、地域の皆さんとともに、支援体制の強化と訓練の質の向上に取り組んでまいります。

戦国時代のお城に学ぶ

これからの防災

皆さんは「城」と聞くと、何を思い浮かべますか？立派な石垣、空高くそびえる天守閣、堀や門…。どれも戦（いくさ）のためのものと思われがちですが、実は城には、自然災害への工夫がたくさん詰まっています。

例えば熊本城。2016年の熊本地震では石垣の一部が崩れましたが、実は崩れた石垣は江戸時代に増改築された部分で、戦国時代に作られた石垣は、熊本地震でも揺るぎませんでした。理由は、排水の仕組みや石垣の「反り」と呼ばれる形状など、地震や大雨に強い構造となっていたからです。

姫路城も、阪神・淡路大震災で大きな被害を受けませんでしたし、現存していませんが、江戸城は、火事の多かった江戸の城下町を堀や石垣で区画分けし、火のまわりを防ぐ工夫がされていました。

このように、昔の人たちは、限られた材料と知恵で、「災害に備える」工夫を重ねていたのです。それは、現代の私たちにも通じる大切な考え方ではないでしょうか。今回は、そんなお城とともに災害への備えを学んでみましょう。



実は熊本城、西南戦争であの西郷どんが攻めたものの、落城しなかった難攻不落の名城です

何はなくとも、まずは水の確保！！

そもそも城は、住むためのものではなく戦うことが目的です。攻め込まれた際は籠城するわけですが、その時に最も必要となるのが水です。人間は、水と睡眠さえ確保出来ていれば、食事なしでも2週間程度生きられます。逆に、水がないと1週間と持たずに命を失います。城でも水の確保は最優先事項であり、水が湧き出る井戸の他、雨水を溜め込む井戸を無数に掘り、水の確保に努めました。水は飲むだけではなく、料理に使うことはもちろん、身体を拭いたり、清潔な環境を整えることに役立ちます。戦国時代の城、と聞くと汚いイメージを持たれる方もいるかもしれませんが、感染症等を警戒し、実は清潔な環境だったといわれています。皆さんの城（自宅）には、水が備蓄されていますか？また、非常用トイレや除菌ウェットティッシュ等がありますか？災害時でも、清潔な環境を整えることは、衛生面からも、精神面からもとても大切です。

食べられるもの？身近にあるよ！

先の熊本城は、「食べられる城」と呼ばれることもあります。ご存じでしょうか。実は城のあちこちに食料が隠されているのです。例えば壁にはかんぴょうが埋め込まれていたり、天守の畳を芋のつるで作っていたりします。また、庭にはイチヨウの木が植えられており、ギンナンの実を採ることも可能でした。ただ食料を備えるだけでなく、栄養豊富な食料をあちこちに備えることで、籠城が長期化した際の栄養失調にも対応していたわけです。

皆さんも、自宅に食料の備蓄をするか、ローリングストックは取り入れていることかと思えます。ただ、炭水化物に偏っていたりしませんか？栄養面にも目を向けていますか？災害が長期化した際、野菜ジュースやサプリメント等も大切になってきます。自分が好きなものを備蓄することは大切ですが、栄養は十分か、確認してみましょう。

八王子市は自然が豊かでとても暮らしやすい場所ですが、地震や台風、大雨など、いつ災害が起きてもおかしくありません。だからこそ、日ごろから「ちょっとだけの備え」が大切です。

城のように強固な家に住むことは出来なくても、家具の転倒防止、懐中電灯の用意、非常食や飲み水の確保等、今から準備出来ることはたくさんあります。難しいことを急に全部やる必要はありません。「今できることから少しずつ」で大丈夫です。災害の備えをしながら、八王子市で有名な八王子城と滝山城を訪れてみてはいかがでしょうか。これらのお城も、防災の観点から見るとちょっと違った姿が見えてくるかもしれません。

《お知らせ》自防連だよりは、メールでのPDFデータ配信も行っています。ご希望の団体は、右記メールアドレスまで、ご連絡ください。

八王子市自主防災団体連絡協議会事務局

八王子市役所 2階防災課内

電話 042-620-7207 FAX 042-626-1271

Eメール b210300@city.hachioji.tokyo.jp

